

Recherche 00173 ベネチアンジャケット仕様書

ニット用

パターンパーツ数 9

～付属品～

伸び止めテープ

接着芯

留め具

サイズ	80	90	100	110	120	130	
身丈	32	34.5	37.5	41.5	45	48.5	
肩巾	20	22	23	24	26	28	
身巾	32	34.5	37.5	41.5	45	48.5	
袖丈	27.5	32	36.5	39	43	47	
用尺	110 巾	105	115	122	132	145	157
	150 巾	75	80	83	105	112	118

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。  
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転  
売はご遠慮ください。

## ■ 用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。

■ 二本針四本糸ロックミシン使用を想定しています。それ以外の場合は着用し辛くなったり、糸切れの原因になりますのでご注意ください。

パターンには芯を貼る位置やステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

## ----- 作り方 -----

粗裁ちし、接着芯を貼ります(※本仕様書では省略しています。)

「前・後見返し」と「表衿」を粗裁ちをした後、全面に接着芯を貼ります。

(※粗裁ちとは…接着芯を貼ると生地が縮む為、パターンよりも大きめに裁断する事です。)

## 裁断

地の目線を確認し、生地の方角や伸びに注意しながら裁断します。

粗裁ちして接着芯を貼ったパーツもパターンどおりに裁断し直します。

## ノッチ(合印)を入れます

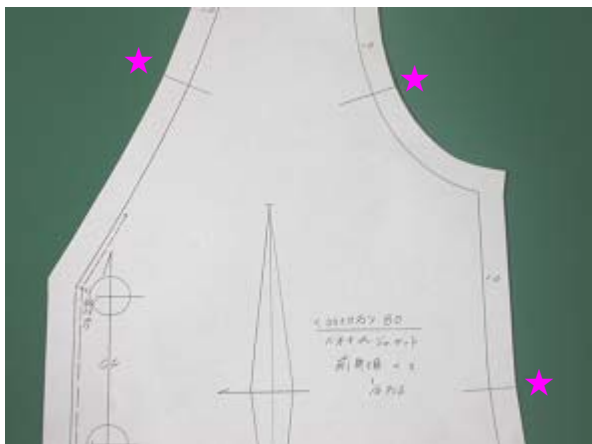
各部にノッチを入れます。

裁断時、わ になった部分にもノッチを入れます。(CB、後見返しCB、衿CB)

※ノッチとは、縫い代に0.3 cmほどの切り込みを入れることです。

※ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。

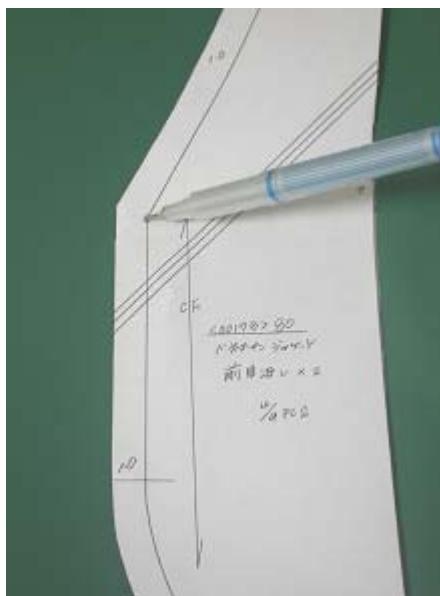
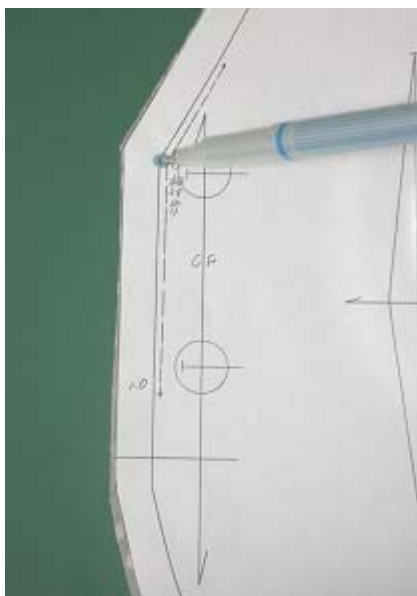
※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせます。



画像★の線が合印(ノッチを入れる位置)です。  
(その他各パーツにノッチがあります。)

衿付け止まりに印を付けます

「前身頃」は生地は表面に、「前見返し」は生地は裏面に印を付けます。  
※パターンの衿付け止まり位置に目打ち等で穴を開け印を付けます。



伸び止めテープを貼ります(※本仕様書では省略しています。)

「後身頃SL(肩線)の縫い代の裏」に伸び止めテープを貼ります。

## 衿

「表衿」と「裏衿」を中表に重ね、出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。



※表衿が若干大きくなっています。  
(画像は裏衿が上)



カーブの急な部分の縫い代を少し切り落とします。  
衿の縫い代(外周)に切り込みを入れます。  
※カーブの急な所は多めに入れます。  
※縫い目を切らないように注意します。  
衿を表に返し、アイロンをかけます。



外周にステッチをかけます。  
※ステッチを隠したい場合は裏コバをかけます。

～裏コバ～



衿を開き、表衿の縫い代を裏衿側に倒します。

表衿以外の三枚(表衿縫い代・裏衿縫い代・裏衿)にステッチをかけます。

※カーブの大きさによってステッチをかけられない部分もありますので、可能な部分のみステッチをかけます。

見返し



「前見返し」と「後見返し」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5mm巾ロックで縫い合わせます。



3mm切り落としながら5mm巾の空ロックを「前・後見返しの外周」にかけます。

※SLの縫い代は前見返し側に倒します。

## 袖



3 mm切り落としながら5 mm巾の空ロックを「袖口」にかけます。



「袖口」を出来上がり線で折り、ステッチをかけます。

## ダーツを縫います



「前身頃」と「後身頃」にひし形ダーツを縫います。

縫い代をアイロンでセンター側へ倒します。

※Recherche仕様書ダウンロードページの部分縫い「ダーツの縫い方」参照

SL・衿ぐり

「前身頃のSL」と「後身頃のSL」を中表に重ね、5mm切り落としながら5mm巾ロックで縫い合わせます。



身頃の表面に、表衿が上になるように衿を重ねます。



「衿の端」「NP」「CB」の縫い代を身頃に仮留めします。

※SLの縫い代は後身頃側に倒します。



「身頃・衿」の上に、「見返し」を**中表**になるよう重ねます。

(※見返し裏面が一番上になります。)



「見返しの裾」～「衿ぐり」～「見返し裾」の出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます



※縫い代が揃わない時はピンセットで縫い代を引き揃えながら縫い進めます。





前裾のカーブ部分の縫い代を少し切り落とします。



衿端の余分な縫い代を切り揃えます。



衿付け止まり角の縫い代をカットします。  
※身頃と見返しの縫い代のみ切り取ります。(ここでは衿の縫い代は切らずにそのまま残します。)



「衿ぐり」～「前裾」のカーブした所の縫い代に切り込みを入れます。

※カーブの急な部分は切り込みを多めに入れます。

※縫い目を切らないように注意します。

### 袖・脇

「身頃」と「袖」を中表に重ね、5mm切り落としながら5mm巾ロックで縫い合わせます。

※袖の左右を確認し、衿を縫い込まないように注意します。



「袖・身頃」を中表に折り、5mm切り落としながら5mm巾ロックで「袖口」～「脇」を縫い合わせます。

※袖ぐりの縫い代は身頃側に倒します。



「袖口の縫い代」を後身頃側に倒し、ステッチで押さえます。

## 裾



3 mm切り落としながら5 mm巾の空ロックを「裾」にかけます。

※身頃脇の縫い代は後身頃側に倒します。

## 衿ぐり・裾

見返しを表に反し、アイロンをかけます。

衿を立て、「衿ぐり」「身頃前端」「裾」に続けてステッチをかけます。



※衿に隠れる位置から縫い始めます。



留め具

ボタン(ボタンホール)やスナップを付けます。

-----  
完成  
-----